

I 教育の充実

3 個性や能力を伸ばす教育の推進

(1) 子ども本位の指導の推進 <<施策12>>

高校教育課、義務教育課、特別支援教育課

総合計画の内容

<現状・課題>

- グローバル化や超高齢社会・人口減少社会の到来・DX※の進展等、社会が大きく変化する中で、困難な課題を解決に導くためには、既存の発想にとらわれず、課題に対して柔軟に向き合い、新しい解決方法を考えていくことが必要となります。

(※ DX: Digital Transformation の略。IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の進化したデジタル技術を社会に浸透させて、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念。)

<施策の方向>

- 全ての学習活動において、本県独自の指導方法である「鍛ほめ福岡メソッド」を実践し、かつ全ての子どもに対して、個々に応じた最適で主体的な学習活動となるよう「子ども本位」の指導を行い、学ぶ意欲や自尊感情、向上心、チャレンジ精神、勤勉性、困難に立ち向かう心等を育成します。
- グローバル化、少子高齢化やDX等が急激に進展する中で、これからの社会を支える意志と実践力をもった気概のある子どもを育てる教育の充実を図ります。

令和4年度 施策の基本的なねらい

- ◇ 個に応じた指導のための指導方法や指導体制の工夫改善、校内での研修を行います。
- ◇ 「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた、学力・体力等の能力伸長の基礎となる資質・態度を育成する教育活動を推進します。
- ◇ 国際的な視野を持って、地域の課題解決や持続的発展に貢献することができる実践力を持った子どもを育てる教育の充実を図ります。
- ◇ 新型コロナウイルス感染症対策と学習保障の両立を図る人的体制の充実を図ります。

令和4年度 主な取組・事業

取組・事業名	概 要
「 ^{きた} 鍛ほめ福岡メソッド」 総合推進事業の実施 ＜重点事業9＞	小・中学校において、「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた実践を通し、学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心等を育成します。また、「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた基礎学力の定着を図る取組におけるICT活用(1人1台端末)の効果的な在り方について実践研究を行います。
少人数指導や習熟度別指導の推進	校内での研修等を通して、指導方法・体制を工夫改善し、個に応じたきめ細かな指導を推進します。 また、ICTの有効活用による主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法の改善・効率化を図ります。
小・中学校の連携強化による 一貫性のある教育の推進	中一ギャップの解消や学力向上の継続的な取組の充実のため、中学校区内の小・中学校の連携強化を図ります。
高校生知の創造力育成 セミナー事業の実施	大学教授などを講師に合宿セミナーを実施し、知識・技能などを活用して思考力・判断力・表現力などを高め、課題解決能力を育むことで、グローバルな視野で考察できる人材を育成します。
次世代の科学技術を担う 人材育成事業の実施	科学技術に関するコンテストを実施し、科学技術系人材の裾野を広げるとともに、「科学の甲子園」及び「科学の甲子園ジュニア」などの全国大会で上位入賞できる能力を養い、国際社会で活躍できる優秀な人材を育成します。
専門高校生実践力向上事業の実施	高校生産業教育フェアやものづくりコンテストの実施及び資格取得・GAP認証等への取組により、専門知識や得意技を磨き、実践的で専門的な職業人として地域の担い手となる人材を育成します。
今日的な課題に対応した 教育の推進	各教科や総合的な学習・探究の時間などを通して、主権者教育、消費者教育、租税教育、人権教育などの今日的課題に対応した教育を推進します。
市町村立学校学習指導員等 配置事業の実施	新型コロナウイルス感染症対策として、3密を避けるための環境づくり、習熟度に応じた学習の充実等、児童生徒の学びの保障をサポートする学習指導員等の配置及び事務的業務や消毒作業等、教員をサポートする教員業務支援員の配置を支援します。

指 標

指 標	指 標 の 概 要	現 状 値	目 標 値
科学技術系人材の 育成	高校生科学技術コンテストの受験者数	635人 (R3年度)	700人 (毎年度)
	科学の甲子園ジュニアの参加チーム数 (中学生対象)	166チーム (R3年度)	150チーム (毎年度)
農業人材の育成	農業関係学科から農業関連分野へ就職・ 進学した生徒の割合(県立高等学校)	36.4% (就職: 37.4% 進学: 35.4%) (R2年度)	39% (R8年度)